「免疫の力で治す」と決意し遠隔治療中の

高校生・お父様の手記

「松本医院の治療方針を信じて遠隔治療（経過報告）」

匿名希望　17 歳

2015 年 9 月 23 日

（お父様の記述）

【はじめに】

この手記を書いたのは、松本医院の治療方針を信じて治療に取り組む方に、少しでもお役に立てればという思いからです。我が家もいろいろと迷ったときに、ここに掲載された手記に励まされ、また治療の参考とさせていただきました。我が家は東京で、めったに大阪までは行けず、電話での松本医院との交流となるため、さまざまな困難がありますが、松本医院の治療方針を信じて治療に取り組んでいます。

さて、我が家の高２の娘がクローン病と診断されたのは、昨年2014年の7月。当初は、近くの病院に入院していましたが、縁あって、2014年8月から松本医院にお世話になっています。

【クローン病と診断】

無事に志望の高校に入学できた娘が、2014年4月ごろから「おなかが痛い」と言っていました。最初は、すぐ治るよと私も言っていましたが、だんだんひどくなってきたので、5月、近くの病院に行くと、「入試のストレスから来る腹痛でしょう」と。

次は高熱が出て…。5月、6月、さまざまな検査をしても原因が分からず、結局、6月末、近隣の大病院に緊急入院。再び、多くの検査（胃カメラ、血液検査、大腸カメラ、検便、尿検査、小腸造影剤CT…）。

検査の連続で、娘がかわいそうでした。検査結果は、クローン病。ショックでした。それも、「難病で、治らない。完治はしない」と…。目の前が真っ暗になりました。

【入院、治療】

クローン病は一般的に「大腸及び小腸の粘膜に慢性の炎症または潰瘍をひき

おこす原因不明の疾患の総称を炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease：IBD）といい、その一つがクローン病」と言われています。入院後、絶食を続けながらの治療が続き、結果的に40日ほどの入院期間中の半分以上は絶食でした。CRPの数値は落ち着いてきたので、低脂質低残渣の食事を始めました。

ところが、併用して、ペンタサ、エレンタール療法を続けても、CRPの数値が改善しなかったので、7月末、医師から「レミケードによる治療を」と勧められました。そのころ、妻が、病院から食事指導を受け顔色を変えて帰ってきました。あまりの食事制限に、「一生、この食事制限で娘は生きていくのか…」と。この時から、妻はインターネットで「クローン病治療」を調べ始め、松本医院を知ることとなりました。

私も、インターネットでクローン病治療のことは徹底的に調べていて、「レミケードによる治療」に一度入ってしまうと大変だと思っていました。私は最初、半信半疑でしたが、妻から見せられた松本医院のサイトの「クローン病の完治の理論と根拠」を何度も読み、妻と娘と話し合い、決断しました。「病院を変えるなら、レミケードに入る前の今だ！」。

数日後、医師から「レミケードの説明をしたい」と呼ばれたので、その場で率直に「レミケードに入る前に、大阪の松本医院で漢方治療をしてみたい。娘に漢方治療が合わなければ、またこちらにお世話になります」と告げました。この病院の医師、看護士の方々にはとてもよくしていただき、感謝しています。

7月28日に退院しましたが、入院前から退院までの期間、胃カメラ・血液検査・大腸カメラ…と、検査の連続。また長期間の首への点滴と、娘がかわいそうでした。退院したその日に、ペンタサの服用はやめました。

【東京から松本医院へ】

退院した翌日、わらにもすがる思いで、妻と娘を連れ、松本医院に行きました。松本先生の「絶対に治る！」「何でも食べていい」という言葉には、勇気づけられ、希望を感じました。「治らない病気。一生続く食事制限」と思っていたので、驚きました。松本医院の治療の理論の核心は次の内容であると、私は理解して、娘の治療に取り組んでいます。

（松本医院サイトより）

ストレスがなければ、元来簡単にIgEを作ってアレルギーで排泄すべき異物を、あらゆる組織の結合組織で膠原病を起こしてしまうのです。従って、クローン病は難病中の難病と言われますが、潰瘍性大腸炎と比べてことさら難病という必要もないのです。というよりも、潰瘍性大腸炎が消化管全てに及んだときにクローン病になると言った方が正しいのです。従って、クローン病の根本治療は、潰瘍性大腸炎の治療と同じく、膠原病の武器であるIgGを自然にクラススイッチして、アレルギーの武器であるIgEに変えてしまうと、クローン病の症状である腹痛や下痢や出血がアレルギーの痒みに変わり、最後は自然後天的免疫寛

容を起こせばよいのです。このために様々な免疫を上げる東洋医学的手法を駆使すれば、自然にクラススイッチと免疫寛容が生じて、環境汚染物質である抗原と共存できるようになるのです。

上記のような考え方を信じて、翌日から、毎日、食前食後に漢方薬。週1回の漢方風呂を始めました。漢方の味に慣れるまで娘は、泣きながら飲んでいました。また、自宅でお灸をしていましたが、妻が近所に鍼灸院を見つけ、8月末からは週2回、今も継続して鍼灸院に通っています。松本医院には2週間に一度、電話して、指導を受けています。食事は普通食に徐々に戻していきました。普通食で治療ができるというのは、本人も、家族にとっても、本当にありがたいことです。

【甘くない治療】

一年間、この治療を続けてきて思うことは、「根気と忍耐のいる治療だ」ということです。松本医院で治療しても、リバウンド等に耐えきれず、一般の病院に戻る方もいると聞きますが、その気持ちも分かります。特に、電話での治療指導が主となる場合、病状をうまく伝えられず、限られた電話での会話では、どうしていいか分からなくなることがあります。もちろん、毎週のように大阪に行ければいいのですが、それは経済的に難しいです。

以下は、2014年12月までの治療日誌です。参考にしてください。

＜7月＞

・7/29以降、普通食に徐々に戻していく。

＜８月＞

・8月中はエレンタールも飲む。
・8月中はお灸をする。（8/26以降、週2回鍼灸院に通う）
・8/2　固い便が出る。
・8/4　背中、わきがかゆくなる。
・8/7　ももの裏に、ブツブツが出る。体調がよくなってきた。
・8/11　血便。38度発熱。
・8/14　太ももの裏や手に、赤いものが出てきた。かゆい。押すと痛い。38度発熱。
・8/14　げり、血便。
・8/17　40度まで発熱。
・8/19　ブツブツが治ってきた。
・8/20　太ももの裏にまたブツブツが出てきた。38度発熱。げり。頭が痛い。

・8/22　太ももを中心に、すごいブツブツが出てきた。お風呂でちくちくした。
・8/24　体調がよかった。夜、38度発熱。
・8/25　口内炎。歯が痛い。固い便。
・8/26　鍼灸に通い始める。これ以降、毎週2回、各1時間。固い便。
・8/28　39度近くまで発熱。頭痛。

＜9月＞
☆食前食後に漢方を飲む。
☆週1回、漢方風呂。
☆週2回（各１時間）、鍼灸。
・9/2　学校へ行く。（昼まで）
・9/5　お腹が痛い。朝もお腹が痛くて起きた。38度発熱。
・9/7　体調がいい。便が固め。38度発熱。
・9/8　退院後、一番便が固く良かった。体調が良かった。べろ、のどが痛い。
・9/12　便が固く、良かった。腹痛。
・9/13　水のようなげり、血便。
・9/14　舌が痛い、口の中が痛い。頭がガンガンする。
・9/15　39度発熱。血便。口内炎。
・9/16　38度発熱。血便。口内炎。頭痛。
・9/17　38度発熱。血便。口内炎。
・9/20　39度発熱。頭痛。固めの便。
・9/23　38度発熱。腹痛で夜中3回起きた。
・9/24　38度発熱。悪寒。左の頭が痛い。舌にできもの。
・9/26　39度発熱。頭痛。
・9/29　39度発熱。

＜10月＞
・10/2　39度発熱。便が固め。腹痛。
・10/3　朝、頭がガンガンした。左の首が痛い。
・10/4　39度発熱。ひどい腹痛。
・10/9　38度発熱。げりが多い。夜中に腹痛で起きた。
・10/12　38度発熱。げりが多いが、最後は固めの便。
・10/13　固めの便。頭痛。呼吸が浅く、苦しい。
・10/18　39度発熱、夜には37度。
・10/19　お腹がグーと音が出る。
・10/24　便が固め。頭の左が痛い。
・10/26　便が固め。腹痛で夜中に4回起きた。頭痛。

＜11月＞
・11/1　唇が痛い。目がけいれん。腹痛。腰が痛い。
・11/2　夜にガスがよく出る。
・11/8　近所の胃腸科へ行き、採血・検査。
・11/10　38度発熱。お腹がすごく張る。
・11/15　腹痛のため、アシクロビルを飲み始めた。夜、39度発熱。
これから、夜に起きるようになり、腹痛、汗をたくさんかく。
翌朝、ひどいげり、血便。これから、げりが続く。夜に汗をかく。
・11/17　採血・検査の結果、ひどい貧血。造血剤の注射。夜に39度発熱。
結果は、松本医院へ送る。
・11/19　造血剤のカプセルを飲み始める。
・11/23　39度発熱。げり。
・11/26　38度発熱。軟便に。（黒い）
・11/27　軟便に。ガスが出る。
・11/28　造血剤の注射。夜に39度発熱。ひどい腹痛。
・11/29　夜中ひどい血便。朝も3回血便。めまい。一日中だるい。夜に39度発熱。
・11/30　39度発熱。腹痛。

＜１２月＞
・12/1　夜中2回げり。昼間7回げり。だるい。38度発熱。腹痛。
・12/2　夜中起きなかった。昨日よりは体調がよかった。
・12/3　夜中2回げり。朝39.6度。昼間5回げり。だるい。腹痛。食欲もない。
・12/4　17時以降40度の発熱が続く。風呂に入り39度に。
・12/5　朝、36度。
・12/6　松本医院へ行く。

【12月6日、松本医院へ】
8月から治療を始め、一進一退が続く中、12月6日、松本医院へ行き、以下のような指導を受けました。この内容は、我が家の台所に貼ってあります。
●日常生活は、ストレスのない生活、ゆったりした生活、規則正しい生活を心がけるように。
●食事：栄養をよくとる
・タンパク質（肉、魚…）、野菜をとる、炭水化物を減らす。
・発酵食品（納豆、みそ汁…）がよい
・自然のもの（何を食べてもいいが加工食品はできれば控える）
●発熱について
・免疫アップの取り組みをしていて、免疫の働きが強いから、熱が出る
・夜の発熱は膠原病熱

・熱が出ることは悪いことばかりでない
（高熱の時に風呂には入るのは良くない、温かくして休むのが良い）

【2015年になって】
1月も今までのような状態が続きましたが、2月からどうにか高校へ行けるようになり、3月の中間試験まで受けることができました。ところが、試験が終わった日の夜から、40度近くの熱が連日出るようになり、下痢、腹痛…。当然、学校には行けず、家で休んでいました。一番熱が出た時は42度までいきました。
この状態が続くことは、娘にとっても、親にとってもつらいことで、「大病院に行って、熱を下げてあげたい…」という思いにもなり、心が揺れました。娘の体重は10キロ落ちました。食事をしたくても、吐き気が激しく、全く喉を通りませんでした。そんな状況なので、エレンタールを飲もうとするのですが、それも美味しくなくて、泣きながら飲んでいました。手足はガリガリになり、起き上がるときは、ヨロヨロしていました。しかし、12月に松本医院に行った時に聞いた「免疫アップの取り組みをしていて、免疫の働きが強いから、熱が出る」という内容を、家族で確認して、乗り越えていきました。とにかく、「免疫の力で治す」ために、免疫を上げるための、漢方薬、漢方風呂、鍼灸を続け、漢方風呂も週2日にしました。漢方風呂ではない日も、湯船に１時間は必ず浸かっていました。こんな状況が1ケ月ぐらい続きました。
4月下旬、やっと症状が落ち着き始め、発熱、下痢の症状がなくなり、5月からどうにか学校に行けるようになりました。この期間を越えるのは、本当に大変でした。その後、夜は微熱が続いていましたが、少しずつ回復に向かっていきました。6月ごろからは、学校にお弁当をもっていき、午後まで授業を受けられるようになり、7月の試験も受けることができました。

【2015年7～8月】
夏休みに入り、回復してきた娘は、それまで会えなかった友達と会ったりしていましたが、8月初旬から再び、38度ほどの発熱、下痢等の症状が出てきました。松本先生に相談すると、「夏になり、体温が上がると、免疫力が上がるので、免疫の活動が活発なのだ」と言われました。「免疫の力で治す」ために、免疫を上げるための漢方薬、漢方風呂、鍼灸を続けました。
何度もこのような闘いを超えて、回復していくのだろうと今は思っています。ここまで手記を書いて、松本医院に8月中旬に送る予定でしたが、そのころ大変な事態になりました。娘が「お尻が痛い。お尻にできものができた」と言いだしましたが、以前も何度かあり、自然に治ると思っていると、痛くて夜も眠れないほどになってしまいました。お盆休み明けに、松本医院に電話すると、「すぐに近くの肛門科の病院に連れていきなさい」と言われ、動揺しました。感染症かもしれないと、フロモックスを勧められ、ちょうど家にあったので飲ませました。「すぐには手術しない」という肛門科の病院を探し、翌々日、娘を連

れていきました。
　事情を説明すると、当院では診察できないので、大病院に行ってほしいと…。そこをお願いして、診察してもらいました。「痔瘻ではないが、膿がたまっているようだ」と。大病院に行くことを強く勧められましたが、帰りました。行っていたら、間違いなくすぐに手術だったでしょう。帰宅後、松本医院に電話すると、フロモックスとフラジールを飲むように言われ、それを飲み続けました。ある時から膿が出てきて、だんだん痛みがなくなり、安定してきました。
　9月中旬になり、やっと高校に少し行けるようになりました。大病院に行っていたら、手術をして、まだ入院していたかもしれません。治療とは難しいと思います。以前は、医師の言うことは正しいものだと、思っていました。今の情報化社会の中では、調べればある程度のことは知ることができます。様々な医師の考え方、治療法がある中で、どれを信じていくか…。最後は自己責任なのでしょう。

【長い目で治療】
　まだ治療の途中ですが、普通食を食べることができ、副作用のない治療なので、ありがたいです。すぐにクラススイッチが起こり、完治するのではないか、と思ったこともありますが、一生治らないと言われた病気です。まだ一年です。そう自分に言い聞かせて、「免疫の力で治す」ために努力を続けていきます。
　長くなってしまいましたが、同じようにクローン病と闘う方々の一助になればと思い、我が家の取り組みをすべて綴りました。